

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人門前保育会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	岩手県久慈市新中の橋4-12-2		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370700288-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

型にはまった支援ではなく、利用者の能力にあわせ、出来ることを一緒に日々行っている。同法人保育園が隣接のため、日々子供たちと交流出来るのが、当ホームの良い所です。また、近くには、スーパーや図書館等があり利用者の希望により、散歩しながらの買い物等にも出掛けます。週3回利用者と一緒に輪車を押しながら、出掛け、品物と一緒に選び、食材購入しています。そのため、突然のメニュー変更もあります。利用者のお誕生日には、職員と1日一緒にいきたい所や食べたいもの等自分のしてみたいことを楽しめるよう取り組んでいます。お散歩好きな利用者様とは約1時間のコースを散歩。職員の体力づくりにも役立っております。当ホームは、静かというより、いつも笑顔で元気のグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

※管理者や職員は、出来るだけ体を動かし、車椅子を使用しないケアを意識して取り組み、様々な工夫をしている。
 ・週3回、利用者と一緒に食材の買い出しをしている。
 ・利用者と品物を選び、調理方法を相談し、献立を変更することもある。
 ・利用者の誕生日には、自分の行きたい所へ行き、食べたい物等を食べて、職員と1日一緒に過ごすことにしており、楽しい日となっている。
 ・散歩が好きな利用者と一緒に歩いている。
 ※入居から1週間、食事・排泄等の生活リズムを記録し、利用者個々のパターンを把握している。
 ※共有のホールでは、利用者と職員の会話が弾んでいる。管理者と職員、職員同士の関係が良好に感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで運営理念を復唱し意識付けをしてから支援を実践のしている。職員個々の能力には差があるが、画一的な支援にならないよう心がけている。	理念は、開設時に職員で「自分達が住みたいグループホーム」と話し合い、集約したものである。朝のミーティングで唱和し、意識しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の行きつけの理美容店をタクシーを使用したり、ご家族の協力を得ながら継続できるよう配慮している。買い物、散歩の時など、近所の方と立話を行う等声をかけてくれる方が増えてきている。ご近所方から柿を頂いたり、野菜の差し入れ等もある。	行きつけの理・美容院に、利用者一人でタクシーで出掛け、終わると理・美容院がタクシーで帰してくれるというようなお店やタクシー会社の協力を得ている。近所の方からの差し入れもあり、地域との日常的交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験、職場体験等の受け入れを行うことで、認知症や福祉に興味を持っていただけるよう努めている。地域の方に相談されたりすることがあるため、分かる範囲でお話をしている。また、職員が自分の近所の方に認知症の話をする事で、少しずつ地域に認知症理解のわが広がっているように感じる	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護職員が1名出席し、普段現場で感じたことや悩んでいること等を会議で伝え助言を頂いている。また、新しい情報交換等を行っている。推進会議録を回覧し、職員全員が内容把握できるよう努めている。	運営推進会議に、介護職員が参加し、体験を伝えている。また、ホームの運営状況を認識できる経験になっている。会議録は、委員の質問への応答が詳細に記述されており、職員全員で回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員のメンバーを通じ情報交換としている。施設の実情を伝えることで、様々な情報を頂くことが出来ている。包括事業所や居宅事業所との連絡を取り合うことで、申込者などの情報を伝え合うことが出来ている。	市とは、推進会議の委員を通じて情報や助言を頂いている。また、生活保護の担当者との連携が図られている。今回、市から認知症介護サービス事業開設者研修を勧められ、研修を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠は行っているが、日中は施錠していない。身体拘束は行っていない。帰宅欲求の強い方に対しては、家族の協力を得ながら、出来るだけ外出できるよう支援している。日中は利用者の居場所を定期的に確認するよう心がけている。	玄関は、夜間施錠している。センサーは使用していない。利用者の居場所を定期的に確認している。また、帰宅願望が強く、不意の外出が想定される方は、家族の協力を得て、外出の機会を多く支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加する機会は少ないが、言葉使いに気をつけるよう心掛けている。声掛けの口調が強めになることがあるので、職員同士注意しあいながら、支援に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している方はいない。必要な方がある場合は紹介していきたい。 金銭管理に関して、社協のサービスを利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約書、重要事項説明書を説明し理解に努めている。後日質問等がある場合、分かる範囲で回答するも、不明なときには上司に報告し、改めて、ご家族に説明し理解を得るよう努めている。 不明な点はその都度説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、日々の会話の中から要望等を聞きだせるよう配慮している。(買い物、散歩、床屋等) 家族については、面会時に出来るだけ話を聞くよう心掛けてはいるが、家族からの要望はあまり聞かれない 掲示板を利用し、情報発信に努めている	利用者については、日々の関わりの中で気づいたことや変化を、気づき・ひやりはっとノートに記載・共有し、対応している。家族とは、面会時、通院時声がけし、意向を聞いている。広報紙「けやぐ」を送付しホームの様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議、申し送りの時など職員の意見を聞くよう努めている。職員が働きやすいようシフト内容等は可能な範囲で意見を取り入れるよう心掛けている。 その都度話を聞いてもらえる。	業務会議(月1回ケースカンファレンスも行う)や申し送り時に職員から提案されたことは、「気づいたことはまず実践してみる」を心がけ、取り組んでいる。利用者の食事時間の夏期と冬期の変更を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会等に参加するため、シフトの配慮を行っている。研修会希望者には積極的参加を勧めている。出来る範囲内で給与に反映させている。技術面、支援面で悩むことがあるときには助言できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員不足により、研修会等の参加は難しい状況にある。施設内研修も難しい状況ではあるが、出来るだけ研修会に参加できるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の交換研修等を通じて、交流を図るよう配慮しているが、今年度は難しい状況である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族。ケアマネからの情報、病院からのサマリー等から情報を収集。また入所時はなかなか本人の気持ちがくみ取れないため、普段の会話の中から不安や要望をくみ取れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に出来る限り話を聞き、説明をするよう心掛けている。 施設に来所の方には、笑顔で明るく挨拶を行うことを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービス利用からの入所の方は、出来る限り前回のプランを継続できるよう配慮している。また、「その時」には職員の意見を総合した上で、家族と相談し方針を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、出来ることを一緒に行う。(買い物・調理・ゴミ捨て・洗濯干し等) 利用者が行ってみたいと言う 声には出来る限り答えられるよう配慮している。分からないところは利用者聞きながら行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、ご家族互いに遠慮して言えない部分があるようなので、職員がクッション役になれるよう心掛けている。通院はご家族に対応して頂き、家族との距離が離れないよう配慮している。月1回広報を発行し施設内での様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には、使い慣れた寝具などを持ち込んでいただいている。行きつけの美容院には家族の協力を得て月1回程度利用できるよう配慮している。誕生日の時には、本人の行きたい所にいけるよう努めている。	面会は、家族が週3回来る方や盆正月に来る方、友人が誕生日とか記念日に来られる方もいる。居室で過ごされ、職員がお茶を出している。また、一人だったが、地元の敬老会の参加を計画したりした。直前に体調不良で実行できなかったが、今後も、継続して取り組みたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声を掛け合いホールに出てきたり、ソファーに座り話をする様子が見られる。利用者が困っていたりすると、職員に教えてくれる利用者も方もある。1人が好きな方もいるが、職員が話し相手になり、他者とのパイプ役を務めるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、あまり係ることはないが、外出先であつたりした時には、心境を確認している。次の施設が比較的近い場所の方は、職員が面会に行ったりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、本人の希望をくみ取れるよう傾聴を行っている。家族の意向と本人の意向が違う場合は、出来るだけ本人の希望を家族にきちんと伝えるようにしている。意思疎通の難しい方には、普段の仕草、行動からその思いを探るよう努力している。	言葉を理解できない方には現物を見せたり、○×で確認している。また、時には、ダメな事にはダメと伝えることが必要と考えている。帰宅願望の強い方に、約1時間の散歩で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族、担当ケアマネ、本人から最低の情報把握している。普段の会話から分からないことがある場合は改めて家族から情報を収集し、整理し支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の健康チェックを行う。会話や行動の中から、その日の状態を把握し、状態にあった支援を行うよう努力している。また、状態変化に気づいたときには、職員間で連絡・相談・報告をし情報を共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回程度モニタリングを実施。状態変化や、介護度が変わったときにはプラン変更を行っている。家族からの希望も取り入れながらプランを作成している。	担当制にしており、担当者がモニタリングし、会議で他の職員の意見を聞き、ケアマネジャーがまとめて介護計画を作成し、家族に説明し、了解を得ている。月1回、担当者が受診の案内や最近の利用者の様子を文書で伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を中心に利用者の状態を記録し、居室担当職員を中心にプラン作成を行う。変化があった際にはその時々集中して現状を把握するよう努めている。連絡・気づき・申し送りを中心に職員間での情報共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の「やってみたい」の声を実践できるよう取り組んでいる。家族の協力が必要なときもあるので、そのときには相談している。地域のサービスも取り入れたいとは考えているが、計画の段階で終わっているものもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用。外出、他施設入所者との面会等可能な範囲で取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時医師への情報提供や、症状に応じて同行受診を行う。定期的受診以外のときは一度家族に相談し了解を得てからの受診となることが多い。	通院は、家族を原則としている。かかりつけ医に、ホームでの生活・健康状態を伝えている。夜間・休日の緊急対応は、救急の病院になるが、家族は救急車での対応を望まないことがあり、了解を得て、受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、同法人看護師やかかりつけ医看護師等に相談助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。退院時にはサマリーを受け取り、不明な点は入院先の看護師、ケースワーカー等とやり取りを行う。必要に応じて面会に出掛ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル支援は行っていない。入所時看取り行っていないことを家族に説明し了解を得ている。ただし可能な範囲内で協力することは伝えてある。看護師がいないため、医療行為が必要になった場合は受け入れが難しい。	入居申し込み時に、看取りを行っていないことを説明し、了解を得ている。ホームでの生活が困難になった場合には、適切なケアが受けられる施設に移行するまで、可能な範囲の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習会を実施。避難訓練や通報訓練を定期的に行い実践力を身につけている。 今年度は、抜き打ちの避難訓練も実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練。通報システムについては定期的に訓練を実施している。新しい職員が増えたため、再度一からの指導が必要と思われる。	9月に隣接する保育園と合同で、避難訓練を行っている。反省点を踏まえ、今年度中に行動マニュアルを作成する予定である。火災通報装置を設置しており、消防署、理事長に速やかに通報される仕組みになっている。	消防署の指導を得て避難訓練を実施しており、また、通報訓練は定期的にも実施しているが、今後は、実際に夜間の暗さを体験する訓練を実施し、様々な状況を想定し、有事に備える取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入室の際には許可を得てから入室している。声掛けについては、個々に応じて対応を変えている。個人的な話をしたい時には、居室等1対1を心掛けている。	声掛けは、名字や名前で個々に対応しているが、女性は旧姓に戻ることもあるため対応している。また、居室に入る時は許可を得て入ることとしている。トイレには、自分で行くが後始末の確認が必要な方は、さりげなくケアしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけの声掛けではなく、質問形式で問いかけることにより、小さな自己決定が出来るよう配慮している。 施設内ですれ違うときでも声をかけ、利用者が声を発しやすい環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に出来るよう心掛けてはいるが、同時に数人から要求があるときには待ってもらうこともある。1日中寝ていたい。1日中読書したいという意見を聞くことはある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選択は個人個人が行うようにしているが、着衣失行などのある方は、職員が選択方式で利用者を選んでいただく。整容等は職員の声掛けで行っている。 外出時化粧をして出掛ける方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳。下膳は利用者が自ら行う。食事の準備は出来る範囲で行っている。食器洗い、食器拭き等行っている。食事の声掛けが遅いときには、利用者自ら「手伝うよ～」と盛り付け等協力して下さる。	献立は職員が立てている。利用者に、チラシを見てもらって、「うまそうだ作ってみるか」、「何、食べたい?」「なんでもいい」等、会話をしながら献立を作成している。歩行に不安がある方も、配膳・下膳を自分で行っている。食器拭きを職員に頼まれて嬉しそうに手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量。食事形態は個々によって変えている。水分摂取に関しては、こまめに提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。自分で出来ない方には職員が介助している。特別口腔内に炎症などが見られる方は、職員が仕上げ磨きをしている。 食事前の口腔体操を行うことで、唾液分泌を促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家族の希望により、リハパンを使用している方はいるが、昼夜を通しオムツを使用しないよう心掛けている。定期的なトイレ誘導と、排泄パターン・サインを職員間で共有し、トイレでの排泄が出来るよう心掛けている。	トイレには、自分で行く方が多い。おむつを使用せず、布パンツに尿取りパットを併用している。夜間は時間で起こし、トイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給・運動などに取り組んではいるが、薬を使用しないと排泄に結びつかない利用者もいる。 排便の感覚がない方もあるので、職員の観察が必要となる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっているが、1日を通して入浴で来るようには配慮している。仲間同士一緒に入浴する方もいる。夏場等は希望によりシャワー浴を実施。足浴希望者には随時対応している。	週2回入浴している。夏場や汚れた場合はシャワー浴をしている。「風呂」という言葉が理解できない方もおり、風呂を見ることで入浴ができています。異性介助を嫌う方は職員を替えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は本人お希望によって行っているが、夜間の睡眠に影響がない程度で声がけている。夜間は眠剤を使用している方もいるが21時までは自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬は職員2名で確認。変更があった場合には情報を共有し、状態確認を行っている。薬には日にちをつけ、服薬前職員と一緒に名前、日にち、いつの薬かを確認し服薬していただく。個人の能力に応じて、手に乗せたり、見守り程度と支援方法を変えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園児交流や買い物、散歩等本人の希望を取り入れている。活動の際にも、何をしたいか確認している。閉じこもりがちな利用者には、比較的心を開いている職員が1対1で対応し、戸外に出掛けることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人で出掛ける能力はある方は、家族と協議し出かけている方もいる。食材の購入時には、なるべく利用者として出掛け、戸外に出掛けられるよう配慮している。 家族の協力を得て自宅に外出・外泊する方もいる。	散歩がてら図書館に行ったり、買い物をしたりしている。食材の買い出しには、一輪の手押し車で出掛け、運んで来ている。桜(花見)や海などへのドライブは、全員で出掛けている。一人で外出した利用者に、近所の方が声掛けして止めてくれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	1人暮らしの方は比較的金銭が手元にないと不安を感じるようなので、家族と協議の上、自己管理している方もいる。管理が難しい方は施設で管理している。買い物時には個人で支払うもつり銭などは職員がそれとなく確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時には、事務室の電話を使用できるようにしている。遠方の家族から贈り物が届いたとき等は、利用者が連絡を入れるよう配慮している。家族からの手紙等も手渡している。返事を書きたい方には支援をしたいが、今のところ希望者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には季節感を感じられるよう、利用者と一緒に花壇整備をしている。廊下にソファを置き、日向ぼっこをしながら、読書やおしゃべりが出来るよう配慮している。	中庭を中心に、回廊になっている。花の得意な利用者に教えてもらい、中庭の花壇に菊などを植えている。ホールの壁には、利用者と一緒に作ったクリスマスの飾りが飾り付けられている。加湿器、蓄熱式暖房機が設置されている。ホールの手作りの本箱には、文庫本や単行本があり、利用している。廊下にソファが置かれ、寛げるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごす利用者が多いが、施設内ベンチやソファ・ホールなどそれぞれの時間を過ごしている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しているものを持ち込み、馴染みのものに囲まれて生活できるように促している。配置についてもご家族や利用者と一緒に相談しながら使いやすいよう配置している。	居室は、和室6室、洋室3室で、洗面台、クローゼット、筆筒が備えつけてある。寝具やベッドは、自分で用意している。和室に布団の方もおり、テレビ、椅子、こたつを持ってきている。居室は、利用者が自分で掃除している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るところは自分で行ってもらうようにしている。共有スペース、廊下等は危険なものを置かない様気をつけている。定期的に施設内を確認し利用者の置き忘れ等がないか確認している。		